

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	イノラス配合経腸用液 (りんごフレーバー)
(規格・含有量)	イノラス配合経腸用液: 187.5mL(300kcal)
(メーカー名)	株式会社大塚製薬工場
【薬価収載日】	2019年5月
【薬価】	10mL; 15.70円
【薬効コード】	3259
【薬効分類名】	経腸栄養剤(経口・経管両用)
効能・効果	一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり、経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。
用法・用量	通常、成人標準量として1日562.5~937.5mL(900~1,500kcal)を経管又は経口投与する。経管投与の投与速度は50~400mL/時間とし、持続的又は1日数回に分けて投与する。経口投与は1日1回又は数回に分けて投与する。なお、年齢、体重、症状により投与量、投与速度を適宜増減する。
禁忌	1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.牛乳たん白アレルギーを有する患者[本剤は牛乳由来のたん白質が含まれているため、ショック、アナフィラキシーを引き起こすことがある。] 3.イレウスのある患者[消化管の通過障害がある。] 4.腸管の機能が残存していない患者[水、電解質、栄養素などが吸収されない。] 5.高度の肝・腎障害のある患者[肝性昏睡、高窒素血症などを起こすおそれがある。] 6.重症糖尿病などの糖代謝異常のある患者[高血糖、高ケトン血症などを起こすおそれがある。] 7.先天性アミノ酸代謝異常の患者[アシドーシス、嘔吐、意識障害などのアミノ酸代謝異常の症状が発現するおそれがある。]
相互作用	他剤作用減弱 ワルファリン
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー

(薬品名)	ロケルマ懸濁用散分包 5g	市販直後調査;令和2年5月~令和2年11月
(英名)	Sodium Zirconium Cyclosilicate Hydrate	
(規格・含有量)	1包中ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物 5g	
(一般名)	ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物	
(メーカー名)	アストラゼネカ株式会社	
【薬価収載日】	2020年5月	
【薬価】	1包;1,095.20円	
【薬効コード】	219	
【薬効分類名】	高カリウム血症改善剤	
効能・効果	高カリウム血症	
用法・用量	通常、成人には、開始用量として1回10gを水で懸濁して1日3回、2日間経口投与する。なお、血清カリウム値や患者の状態に応じて、最長3日間まで経口投与できる。以後は、1回5gを水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、血清カリウム値や患者の状態に応じて適宜増減するが、最高用量は1日1回15gまでとする。血液透析施行中の場合には、通常、1回5gを水で懸濁して非透析日に1日1回経口投与する。なお、最大透析間隔後の透析前の血清カリウム値や患者の状態に応じて適宜増減するが、最高用量は1日1回15gまでとする。	
禁忌	なし	
相互作用	他剤作用減弱 抗HIV薬;アタザナビル硫酸塩、ネルフィナビルメシル酸塩、リルピビルン塩酸塩等 アゾール系抗真菌剤;イトラコナゾール、フルコナゾール、ボリコナゾール等 チロシンキナーゼ阻害剤;エルロチニブ塩酸塩、ダサチニブ水和物、ニロチニブ塩酸塩水和物等	
副作用	重大な副作用 低カリウム血症、うっ血性心不全	
(薬品名)	ユリス錠 1mg	市販直後調査;令和2年5月~令和2年11月
(英名)	Dotinurad	
(規格・含有量)	1錠中ドチヌラド 1mg	
(一般名)	ドチヌラド	
(メーカー名)	持田製薬株式会社	
【薬価収載日】	2020年4月	
【薬価】	1mg;54.80円	
【薬効コード】	3949	
【薬効分類名】	選択的尿酸再吸収阻害薬	
効能・効果	痛風、高尿酸血症	
用法・用量	通常、成人にはドチヌラドとして1日0.5mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回2mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回4mgとする。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤作用減弱 ピラジナミド サリチル酸製剤;アスピリン等	
副作用	5%以上 痛風関節炎	

【薬品名】	カボメティクス錠 20mg・60mg	市販直後調査;令和2年5月~令和2年11月
【英名】	Cabozantinib Malate	
【規格・含有量】	1錠中カボザンチニブリンゴ酸 20mg・60mg	
【一般名】	カボザンチニブリンゴ酸塩	
【メーカー名】	武田薬品工業株式会社	
【薬価収載日】	2020年5月	
【薬価】	20mg;8,007.60円・60mg;22,333.00円	
【薬効コード】	4291	
【薬効分類名】	抗悪性腫瘍剤/キナーゼ阻害剤	
効能・効果	根治切除不能又は転移性の腎細胞癌	
用法・用量	通常、成人にはカボザンチニブとして1日1回60mgを空腹時に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤作用増強 CYP3A4阻害剤;リトナビル、イトラコナゾール、クラリスロマイシン等、グレープフルーツ(ジューズ) 本剤作用減弱 CYP3A誘導剤;リファンピシン、デキサメタゾン、カルバマゼピン等、セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品	
副作用	重大な副作用 消化管穿孔、瘻孔、出血、血栓塞栓症、高血圧、可逆性後白質脳症症候群、顎骨壊死、肺炎、腎障害、肝不全、肝機能障害、骨髄抑制、虚血性心疾患、不整脈、心不全、横紋筋融解症、間質性肺疾患、手足症候群、創傷治癒遅延、重度の下痢 10%以上 下痢(68.9%)、食欲減退(40.1%)、悪心、口内炎、嘔吐、腹痛、消化不良、発疹、疲労(50.7%)、味覚異常、体重減少、甲状腺機能低下症、発声障害、粘膜の炎症、無力症、低マグネシウム血症、低リン酸血症	

剤形・規格変更医薬品通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>9月1日より</u> アイリーア硝子体内注射用キット 40mg/mL ビムパット点滴静注 100mg 	アイリーア硝子体内注射用液 40mg/mL ビムパット点滴静注 200mg

削除医薬品通知

ウロカルン錠 225mg	9/1 削除
ロコルナール錠 50mg	9/1 削除
KN3 号輸液 200mL	9/1 削除

後発医薬品採用通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none">● <u>9月1日より</u> ヒドロキシジンパモ酸塩錠 25mg「日新」 プロピペリン塩酸塩錠 10mg「武田テバ」	アタラックス-P カプセル 25mg バップフォー錠 10

製薬企業変更医薬品通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none">● <u>9月1日より</u> シメチジン錠 200mg「YD」	シメチジン錠 200mg「日医工」

適応追加通知

キイトルーダ点滴静注

100mg

【効能・効果】

悪性黒色腫

切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫

がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌

がん化学療法後に増悪した進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する固形癌 (標準的な治療が困難な場合に限る)

根治切除不能又は転移性の腎細胞癌

再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌

がん化学療法後に増悪した PD-L1 陽性の根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮癌

【用法・用量】

〈悪性黒色腫〉

通常、成人には、ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) として、1 回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。ただし、術後補助療法の場合は、投与期間は 12 カ月間までとする。

〈切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫、がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌、がん化学療法後に増悪した進行・再発の MSIHigh を有する固形癌 (標準的な治療が困難な場合に限る)、再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌、がん化学療法後に増悪した PD-L1 陽性の根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮癌〉

通常、成人には、ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) として、1 回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。

〈根治切除不能又は転移性の腎細胞癌〉

アキシチニブとの併用において、通常、成人には、ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) として、1 回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。

<p>イミフィンジ点滴静注</p> <p>500mg</p> <p>120mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的化学放射線療法後の維持療法</p> <p>進展型小細胞肺癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的化学放射線療法後の維持療法〉</p> <p>通常、成人にはデュルバルマブ(遺伝子組換え)として、1回 10mg/kg(体重)を2週間間隔で60分間以上かけて点滴静注する。ただし、投与期間は12カ月間までとする。</p> <p>〈進展型小細胞肺癌〉</p> <p>白金系抗悪性腫瘍剤及びエトポシドとの併用において、通常、成人にはデュルバルマブ(遺伝子組換え)として、1回 1500mgを3週間間隔で4回、60分間以上かけて点滴静注する。その後、デュルバルマブ(遺伝子組換え)として、1回 1500mgを4週間間隔で60分間以上かけて点滴静注する。ただし、体重30kg以下の場合の1回投与量は20mg/kg(体重)とする。</p>
---	---